

# 銀杏坂

～輝く薩摩中央～

令和5年2月21日(火) 南日本新聞

南日本新聞の「記者の目」に、本校ウエイトリフティング部が掲載されましたので紹介します。

さつま支局・右田雄二

## 記者の目

「将来は外部コーチとして戻ってきたい」。薩摩中央高校ウエイトリフティング(重量挙げ)部3年の下大迫彩夏さんは、大学で競技を続け、卒業後は帰郷して同部を支えていきたいという。全国2位の実績もある下大迫さんの言葉は頼もしい。同校にウエイトリフティング部ができたのは2013年。歴史は浅く、専用の練習場所もない。それでも弓道場でバーベル上げやトレーニングに励み、鹿児島国体の強化選手を次々と輩出。発足10年で九州、全国大会出場の常連校に成長した。

ただ、金城聖丸監督(32)は国体後を心配する。年間約100万円の遠征費の確保が大きな課

## 地域の踏ん張り

題となっており、「部を維持、発展させていくためには、地域の理解と応援が欠かせない」と言う。男女13人の部員はファン獲得に向けて、地域交流に力を入れている。窮状を知り、支援に乗り出した地元企業もある。

主将の2年海端修生さんは重量挙げの魅力を「目標を達成できたときの喜び」と話す。地道に練習を重ねることが結果に表れる競技なのだろう。

地域も部員の努力に応えられるようにも踏ん張りたい。ウエイトリフティング部の活躍は、町の魅力にはかならない。下大迫さんのように「地元に戻りたい」という若者を増やしていくことが過疎化の歯止めになる。

2023・2・21(火)